

第 43 号

発行
福岡県地域婦人会連絡協議会
〒812-0046
福岡市博多区吉塚本町13-50
発行責任者 木下 幸子
TEL 092-643-1440

県婦連ふくおか

*家庭・地域の教育力を高め、青少年の健全育成に努めよう。
*審議会等政策決定の場へ女性の参加を促進しよう。
*循環型社会をめざし、地球環境を守ろう。

『全国大会を間近に控えて』

福岡県地域婦人会連絡協議会

会長 木下 幸子



新緑が目まぶしい季節となりましたが、皆様方には益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。福岡県地域婦人会連絡協議会にとりましては、四十七年ぶりの全国大会開催が間近に迫っております。

十月一日と二日の全国大会には、全国からたくさんの方の参加が予想され、お迎えして、盛大に開催するため、現在急いで準備を進めておりますが、残すところ四ヶ月となり、更なるご協力をお願い致します。

さて、早いもので東日本大震災から四年三ヶ月が経ちましたが、本年四月二十五日にはネパールでマグニチュード7.8の大規模な地震が発生し、被害者数も相当数出ているものの、確かな数字は不明の状況であります。

そのような中、日本が援助して立てた学校の校舎が避難所として活用されているニュースをみまして、日本の建築技術の高さを誇りに感じると共に、ネパールの人々の感謝の声をお聞きして、東日本大震災の時に、いただいた援助に応えるため、福岡県地域婦人会連絡協議会として、義援金を募集して、支援を行いたいと思っておりますので、会員の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

また、今回の全国大会は、防災意識の高揚をめざして、特別講演では、東日本大震災当時、消防庁長官を務めてあった久保信保氏をお迎えし、その当時の緊迫した状況をお話いただくこととしております。

現在、婦人会の抱える問題は、多岐に渡ります。その問題の解決策は、全国で活動している実践の中にあるのではないのでしょうか。多くの方々との情報交換することにより、参考になる事例があり、問題解決の方策が少しずつ見えてくるのではないかと考えております。

そのような思いを共有することができるのが、全国大会を福岡県で開催する意義と考え、全国の皆様と共に全国大会を成功させるため、「おもてなしの心」で頑張ります。

おめでとうございます

新会員幹旋功労者に対する 会長感謝状



感謝状を授与される木下会長

環境保全功労者知事表彰

遠賀町婦人会

遠賀町は水と緑に囲まれ、その大きな遠賀川の支流に魚が多くすめる環境にする為、毎年二月に児童や町民が大切に育てたサケの稚魚を放流しております。もつと多くの児童や町民が関心を持ち、いつの日かサケが遠賀川に帰ってくることを願っています。



第六十三回全国地域婦人団体研究大会

「歴史に学び、未来に夢を馳せ、やさしい心で創る安心・安全な地域社会」

「よりよい、つむぎあう心温まる社会を」

大会開催日 平成二十七年十月一日(木)～十月二日(金)
大会会場 ヒルトン福岡シーホーク

第一日

第一分科会 環境「突発的な豪雨・竜巻・落雷 いま地域は：(仮題)」
第二分科会 福祉「地域に見守りの目を」

第三分科会 教育「高度情報化社会に対応する青少年健全育成」
第四分科会 組織「男女共同参画社会の実現をめざし種々の課題を抱える婦人会の取組を通して解決の糸口を探る」

第五分科会 歴史「長崎街道シュガーロードの旅」

第二日

全体会・記念講演

この全国大会を通して、会員の意識の向上と連帯感を高めていきたいと思っております。
みなさんと共に全国大会を成功させるために頑張ります。

婦人会も市民と一体

「博多どんたく港まつり」

五月三日、降りしきる雨の中、どんたく隊はピンク、ブルー、法被といった鮮やかな衣装で総勢二百二十二人、パレードを盛り上げました。婦人会は青少年の健全育成、防火・防災意識の向上、交通安全など地域に根ざした活動をしていることをアピールしました。



笑顔でパレード



パレードの出番までおどりの練習



どんたく装飾車

新任の抱負

添田町婦人会
会長 田中 妙子

突然の会長の体調不良で大役を交ける事になり、この年齢でどうしようかと不安でいっぱいです。添田町婦人会は、発足一〇年の伝統ある団体です。私は伝承する使命感と共に諸先輩方の努力の賜物を受け継がねばならないと強く感じました。会員の皆様の温かい支援と励ましを受け楽しい集いをモットーに婦人会活動を精一杯頑張ろうと思います。

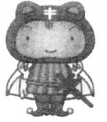
退任のご挨拶

添田町婦人会
福島 ミエ子



三年間、県婦連で楽しく活動させていただきました。気さくで心優しい木下会長をはじめ、本部役員、各市町村の会長の方々に助けられ様々な経験を積み、多くの事を学び、改めて婦人会は地域発展の為にもなくてはならない存在であることを確信しました。健康には自信のあった私ですが、体調不良の為退任する事になりました。これからは、微力ながら婦人会を側面から支えていきたいと思っております。

最後になりましたが、皆様のご健勝をお祈りするとともに、田中妙子新会長へのご支援を重ねてお願いいたします。



第十号シール運動は結核の予防に有効として世界共通の取組がなされています。

第六十六回結核予防全国大会

日時 平成二十七年二月二十六・二十七日
場所 ホテルオークラ福岡

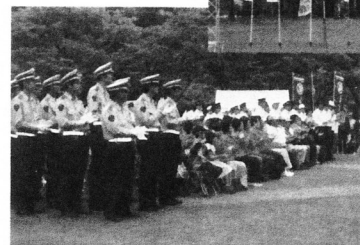
第六十六回結核予防全国大会が約六十年ぶりに福岡県で開催されました。表彰式では、秋篠宮妃殿下が、受賞者お一人お一人に暖かく、優しく笑えんでおられる。気品あるお姿がとても印象的で忘れられません。また、全国結核予防婦人団体連絡協議会懇談会では、秋篠宮妃殿下へ一人ずつそれぞれの地域活動をお話しさせていただきました。身に余る光栄でございました。特別講演では博多町家ふるさと館長の長谷川法世さんの、福岡の歴史から始まり時代を経ての説明、又博多どんたく、祇園山笠等、ユーマアたっぷり話され、私たちも福岡を再認識させられました。この大会を機に、結核や複十字シール運動に対する理解が深まるよう努力していこうという決意を新たにしました。



春の交通安全フェアin中央

日時 平成二十七年五月十二日(月)十二時三十分
場所 福岡天神中央公園

飲酒運転の撲滅や子供と高齢者の交通事故防止などを運動の重点目標として交通事故〇を目ざし、県民一体となつて取り組んできた結果、交通事故数は年々減少しています。しかし昨年の交通事故の死者は一四七名でそのうち半数以上が六十五歳以上の高齢者だということです。今年はずでに死者数が五十七名と昨年を上回りそうな勢いです。事故のないまちになるよう、交通ルールとマナーを守りましょう！



みらいネットフォーラム

日時 平成二十七年三月十四日
場所 クローバープラザ

テーマ「輝く女性たち」

女性の活躍で地方の創生を

三人のシンポジストの方が自分の体験を熱く語られました。整理収納アドバイザーの「糸島くるくる」のマーケツト実行委員会、代表の荒木洋美さんは、糸島を中心に整理収納セミナーの開催、地域活動支援、ヒト・モノ・コトをぐるぐる回して循環型社会を目指して、女性の活躍の場を広げられました。

内田輝美さんは子どもや子連れ家庭が安心して利用できる子育てタクシー事業や「諫早のりありあげカールズ」を結成し、諫早の活性化に努められています。松藤富士子さんは女性農業者としてシメジ等の生産販売や地産地消レストランを開店し女性の雇用の場を広げられました。今回のフォーラムでは身近な生活課題を女性目線できらえ活躍している方々の話でした。



四島返還・ひとりの力が大きな力に

平成二十七年三月二十二日
パピヨンガスホール

北方領土問題とは

北方領土は、北海道本島の北東洋上に位置する歯舞諸島、色丹島、国後島及び択捉島の四島です。多くの日本人がこの地域に渡航し、生活をし父祖伝来の地として受け継いできたものです。一六〇年以上前の一八五五年二月七日、日本とロシアは日魯通好条約を結び、当時自然に成立していた択捉島とウルップ島の間の国境を確認しました。しかし、一九四五年八月九日ソ連は当時まだ有効であった日ソ中立条約に違反して対日参戦し、日本がポツダム宣言を受諾した後同年八月二十八日から九月五

日までの間に北方四島のすべてを占領しました。一九四六年に四島を一方的に自国領に編入し、当時四島全体に約一万七千人住んでいたすべての日本人を強制退去させました。それ以後、今日に至るまでソ連、ロシアによる法的根拠のない占領が続いており、北方領土問題が存在するため日露間では、いまだ平和条約が締結されていません。

日本国民ひとりひとりが北方領土問題に関心をもち、一日でも早く四島返還が実現することを祈ります。



福岡市天神で街頭啓発



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

広げよう 赤十字の輪 つなげよう 未来へ！ 赤十字奉仕団委員長会議・研修会

期日 平成二十七年三月二十四日(火)
場所 日本赤十字社福岡県支部

赤十字奉仕団員の信条

- 一、すべての人びとのしあわせをねがい陰の力となつて人びとに奉仕する。
- 一、常にくふうして人びとのためによりよい奉仕ができるよう努める。
- 一、身近な奉仕をひろげ、すべての人びとと手をつないで、世界の平和につくす。

この信条をもとに私たちは活動しています。

研修会では、手のけがをした時に風呂敷とストッキングを使った包帯やタオルケットや毛布を使って簡単ガウンの作り方を習いました。

災害が起きてからでは、間に合いません。私たちは日頃から災害時の備えとして、各地域で研修した訓練を重ねることが必要だと思ひました。

赤十字ボランティアデー 地域活動



桂川町 “お母さんありがとう”でこどもたちと料理作り



八女市 花いっぱい運動



那珂川町 青少年健全育成活動



岡垣町 清掃活動



庄内女性の会 国際車イステニス大会に中学生と一緒にフラワーポットづくり

手のけが (ふろしきとストッキングを 使った包帯)



- ★ストッキングの付根が、肘の内側にくるまで、手先から通します。
- ★両端を引っ張って背中のように回し後ろで結びます。

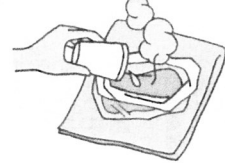


ホットタオルの作り方

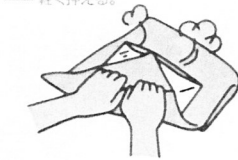
準備品

- タオル2
- ビニール袋1
- カップ(コーヒーカップ等)1
- 熱湯 約100ml~120ml (タオルが湿る程度)

1 ビニール袋にタオルを一枚入れ熱湯をかける。



2 乾いたタオルに包んで軽く押える。

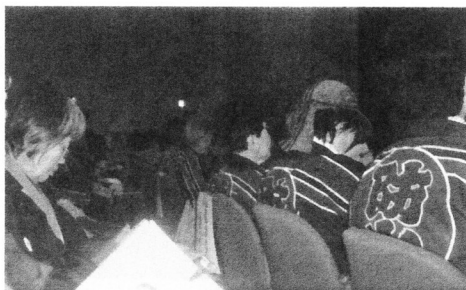


1人で難しければ協力して避難する

皆さんの周りに…

- ・高齢で一人暮らしの人
- ・障がいのある人(聴覚、視覚)
- ・足が不自由な人
- ・妊婦さん(小さな子連れの人)
- ・外国人 など いらっしやいませんか?

「明日は我が身」を基本に、まずは、近くはどういう方がお住まいなのかを知ることからはじめましょう。



はじめに、県内各地域防災活動をしている団体の表彰式がありました。その後、「地域における防災力向上について」自助、近助、共助でつくる災害につよ「まち」と題して、防災システム研究所所長の山村武彦氏の講演でした。

(1) 防災時の行動パターンとして

- ・凍りつき症候群(ショック状態)が75%
- ・取り乱す15%
- ・落ちて着いて行動できるのは10%でした。

四年前の東日本大震災時には、心と身体が固まってしまふ心理的傾向で逃げ遅れる人が沢山出たそうです。自分では走っているつもりでも

走れない…。又、過去の事例や経験にとらわれて対応を誤る心理的傾向も気をつけなければいけません。小さな揺れを感じたら①先ずドアを開ける②安全ゾーンに移動する(落下物の少ない閉じ込められない場所)。

火災の時は①火事だーと知らせる②火を消す③助ける④逃げる。

命を守る「生き残り訓練」を日頃より実践し、自治会や自主防災組織内に、向こう三軒両隣の防災組織を作り、普段から「程よい距離感」で声を掛けあえる関係作りが大切です。地域に住む隣人に関心を持ち、助け合い、傍観者にならない心、それが「近助の精神」です!

福岡県地域防災シンポジウム

日時 平成二十七年三月二十二日(土) 十三時~十六時三十分
場所 エルガーホール八階大ホール

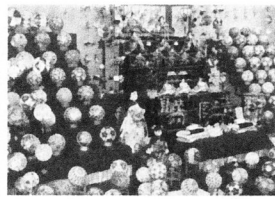
伝統さげもん

手まり教室を通じて会員増をめぐして
柳川市婦人会

柳川市地域婦人会連絡協議会では、一月の最終土・日曜に市民体育館で、さげもん、まり、小物の展示即売会を開催。シルバー人材と合わせて、九〇〇万円ほどの売り上げがありました。

二年前から行政と協同で、手まり教室を年十三回開き、三十人の受講生が、上級・中級・初級に分かれ五人の先生の指導を受けています。修了すると何年か後には、展示即売会へ出品していただけるようになります。出品は会員だけに限るので、これは会員増にもつながっています。地域の伝統を守っていくために、婦人会として、今後も努力を続けます。

今年も観光協会の二階で柳川まり三〇〇個以上を展示し、柳川を訪れる皆さんにとっても楽しんでいただきました。
ぜひ一度、おいでませ！柳川へ！



王塚古墳春季公開に伴うバザー開催について

桂川町婦人会

王塚古墳は昭和九年に発見され、我が国屈指の装飾古墳として、昭和二十七年国の特別史跡第一号に指定され、鮮やかな色彩が施された石室内の壁画や緻密で豪華な馬具などの出土品は、日本有数の歴史的、文化的遺産として注目を集めました。昭和四十二年に石材にヒビが入ったため、石室を見学中止にし、抜本的な保存整備工事が始まり、平成五年に終了し、毎年春と秋に特別公開されています。

現在「金比羅山古墳(墳丘の規模は当地域最大級)」と「王塚古墳」を結ぶ遊歩道が出来る予定です。古代のロマンが香る桂川町へ、どうぞお出かけ下さい。

赤十字移動式がまど引き渡し式

久留米市女性の会連絡協議会

三月十一日、日本赤十字社福岡支店において行われた災害時緊急炊き出し式に久留米市赤奉仕団長として五人で参加しました。

十一時より引き渡し式典に県内二十五地域の代表者が出席され、その代表として女性の会が「移動式かまど引き渡し証書」を授けられました。

その後、屋外で移動式かまどを使つての実演を五人でやりました。

まず、十センチ×三十五センチほどのビニールの炊飯袋に一台の無洗米と水をビニールの赤い線まで入れ、空気を入れないようにビニールの口を輪ゴムでしっかりとしばりました。

そして、沸騰した釜に入れ木蓋をして三十分ゆでザルごと上げて湯切りを

しました。次に、ダンボール等の保温のできる容器に移し蒸らして出来上がりです。災害時に釜も汚れず次々と炊けるという仕組みになっています。炊飯袋を使つて温かいスープ等も具材と調味料を入れれば出来上がりです。

出来上がったご飯・スープを出席者の皆さんで試食、実際に体験していただきました。

この日は、日赤の救護倉庫見学もあり、備蓄してあるタオル・毛布等の救護配給品が梱包され整然と用意されておりました。日本赤十字社の備えも見ることで、大変心強く感じました。

婦人会活動とコミュニティ・スクール

那珂川町婦人会

平成二十六年から那珂川町では、地域・学校・家庭が連携して進めるコミュニティ・スクール制度が始まりました。

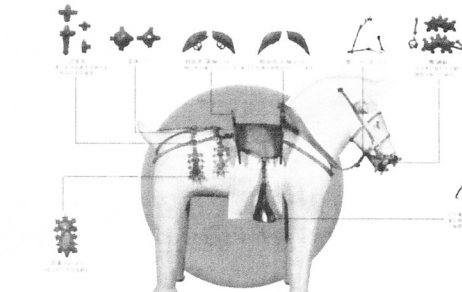
これまで登下校時の見守りや、中学校の体育祭の本番に向け文化の伝承「那珂川音頭」の踊りを会員皆で教えるに出向いていました。また町の大きなイベントである「祭りがわ」では、毎年婦人会が担当の打ち上げ花火の現場での清掃活動です。現場に残った花火のカスを一つ一つ手で拾って集める作業は、八月末の炎天下で行うため照り返しも強く大変でしたが、コミュニティ・スクールの一環で二十六年度は中学生と行うことができ、貴重な体験をさせてもらったと思います。又町の文化祭においては郷土料理のかわこはんのバック詰めから毎年好評のうどんを初めて中学生と一緒に販売しました。



婦人会はこの公開時に、見学に見える人々に「うどん」「味噌飯」等を販売しています。

今年も四月十八日、十九日に「春の一般公開」があり、全国から千人近くの方が見学に見えられ、大盛況でした。

秋の公開時には、「古代の謎フェスティバル」として、各団体が運営委員会をつくり、古代のロマンを理解していただくイベントを開催します。(十月十七日、十八日)



交流を通して今どきの中学生を身近に感じ、また、いつも元気をもらいます。
今の子どもたちに大切なことは、地域での多世代の交流と、ボランティアなどの社会体験、家事や育児などの生活体験といったさまざまな体験活動だと思います。これからも、学校現場に耳を傾け、難しく考えずに、できることから、取り組んでいきたいと思っています。そして、たよられる地域の婦人会であり続けたいです。

27年度 新役員紹介

- | | | | | | | | | | | |
|---------------------------|---|--------------------------------------|---|--|--|---|---|----------------------|-------------------------|-------------------------------|
| 福岡県婦連会長 木下 幸子
(中間市婦人会) | 福岡地区《教育部会》
副会長(教育) 池田 穂波
(筑紫郡那珂川町婦人会)
副会長(教育) 野島 輝美
(太宰府市婦人会) | 福岡地区《教育部会》
地区代表 小田 晴美
(春日市婦人会) | 福岡地区《福祉部会》
書記 池田 博子
(久留米市女性の会連絡協議会)
地区代表 横溝 敏子
(久留米市田主丸町地域婦人会)
委員 篠田紀代子
(朝倉市女性連絡協議会)
委員 臼井 静子
(うきは市女性連絡協議会) | 北筑後地区《福祉部会》
書記 池田 博子
(久留米市女性の会連絡協議会)
地区代表 横溝 敏子
(久留米市田主丸町地域婦人会)
委員 篠田紀代子
(朝倉市女性連絡協議会)
委員 臼井 静子
(うきは市女性連絡協議会) | 南筑後地区《組織部会》
会 計 廣石 福子
(三浦郡大町婦人会) | 筑豊地区《くらし部会》
書記 吉田 春枝
(遠賀郡岡垣町婦人会)
地区代表 安河内浩子
(嘉穂郡桂川町婦人会)
委員 井上 節子
(飯塚市婦人会)
委員 峯岡 準子
(鞍手郡小竹町婦人会)
委員 石橋 重子
(遠賀郡水巻町婦人会)
委員 古場 弘子
(遠賀郡遠賀町婦人会)
委員 田中 妙子
(田川郡添田町婦人会)
委員 野上 君子
(庄内女性の会) | 地区代表 竹井 澄子
(柳川市地域婦人会連絡協議会)
委員 野間口幸江
(八女市地域婦人会)
委員 大藪富士子
(筑後市連合婦人会)
委員 川野米美子
(大川市連合婦人会) | 監 査 松熊 香
(飯塚市婦人会) | 監 査 吉田 典子
(福津市地域婦人会) | 監 査 廣石 福子、吉田春枝、
小田晴美、安河内浩子 |
|---------------------------|---|--------------------------------------|---|--|--|---|---|----------------------|-------------------------|-------------------------------|

編集後記

いよいよ全国大会も間近に迫ってきました。皆さんのご協力を頂いて、心暖まるおもてなしの心でお迎えし、大会を成功させましょう。

編集委員

- 池田穂波、廣石福子、吉田春枝、小田晴美、安河内浩子